



# 荇原神社 例大祭

< 平成24年6月8日(金)～10日(日) >

第106号  
地域情報ニュース

## 品川宿

平成24年9月5日発行  
品川第一地域センター  
(03-3450-2000)



荇原神社(鎮座地 北品川二丁目三十番二十八号)は、南品川宿の鎮守で南の天王様と呼ばれています。

創立は遠く、和銅2年(709)または天長年間(824～833)にさかのぼるといわれ、祈雨と止雨の守護神とされる高龕神(たかおかみのかみ)を始め、天照大神や須佐之男尊などを祀っており、東海七福神のうち、恵比須神が祀られています。

所在地の町名は「北品川」ですが、これは昭和初期の改修工事で目黒川の川筋が変わり、神社の南側を流れるようになったためです。

### 『祭』の夜

夜の祭りの光景は、訪れた人々を魅了したことだろう。

目黒川に沿って並べられた数百の提灯。それら提灯の光が目黒川の水面に反射し、普段は感じることのできない幻想的な雰囲気を作りだす。



対岸に目を移すと、品川橋から神社まで続くジヤリ道に、ぎっしりと屋台が列を連ねている



屋台からは活気のある声飛び交い、その日はかりは夜更かしを許された子供達のはしゃぐ声が更に祭りのボルテージを上げる。

人ごみをすり抜け、神社に着くと、たくさんの参拝者の列ができています。みな、日頃の感謝を伝えるために。屋台で高ぶっていた心が、落ち着きを取り戻す。

荇原神社がこの地域の住民にとって、心の拠り所であることを感じた。

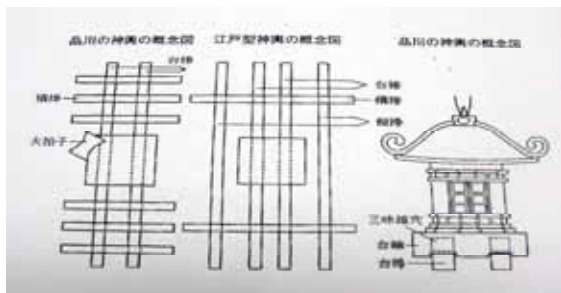
何か懐かしさを感じる祭りに出会った。

### 品川の神輿

一般の神輿は、神輿本体の下部(台輪)の穴(三味線穴)に台棒を通し、この台棒の前後に横棒を結びつけ、さらに神輿を囲むようにして縦棒を結び付けて、この棒で神輿を担ぎ上げます。

しかし、品川の神輿は台輪の下部に台棒を並べ、親綱で締め上げており、また、三味線穴の無いものもあり、台棒が取り付け易いように、神輿台座の下部に凹部がつけられたものもあります。

そして品川では、神輿の脇に大拍子を取り付け、打ちながら神輿渡御を行うため、縦棒を取り付けることができず、一般の神輿のように前方を向いて担ぐのではなく、横棒を背でせり上げて担ぐようになります。



幼い頃から神輿を担いできた多くの地元住民の肩や背には「神輿ダコ」がみられます。触らせていただくと、予想外にプヨプヨしていて、全く硬くありませんでした。

また、品川の神輿の担ぎ手は、神輿を間に向かい合わせでカニ歩きとなり、さらに、担ぎ手同士で互いの力を誇示するので、神輿は左右に大きく揺れながら、ゆっくりと前へ進むようになります。



### 御神面神輿海中渡御

10日(日)に実施されたのが、荇原神社の例大祭で有名な「かっぱ祭り」とも呼ばれる神輿の海中渡御です。素戔鳴尊(須佐之男命)の御神面を神輿に付けて海中を渡し、豊漁と豊作を祈ります。

かつては宿内の海岸から神輿を担ぎ入れていましたが、現在は埋め立てが進み海岸が遠くなったので、目黒川から船に神輿を乗せ、港区のお台場海浜公園周辺で行われます。



この海中渡御は、品川区認定文化財とされています。

また、御神面神輿の屋根に取り付けられた鳳凰がくわえている苗は、祭礼の数日前に獵師町の代表等が番匠免村(現在の埼玉県三郷市)の篠田家に赴き、田植え前の早苗を受け取り、これを持ち帰って神前に供えたものです。



現在でも、この習俗は行われています。

### 氏子町会

- ・東親会
  - ・六丁目睦会
  - ・明睦会
  - ・東睦会
  - ・同友会町会
  - ・南品川南睦会
  - ・三睦会町会
  - ・諏訪町会
  - ・博友町会
  - ・真交町会
  - ・東品川一・三町会
  - ・洌崎町会
  - ・櫻心会町会
- ...宮本町会  
...今年の年番町会

### 【参考文献】

- 品川区史料(六)品川の天王祭
- 発行：品川区教育委員会
- しながわの史跡めぐり
- 発行：品川区教育委員会